

数理科学領域（理科）の紹介

【教員氏名及び研究概要】

- 村上正義：よりよい理科学習のありかたを生活の中にある物質の教材化の視点から研究しています。
- 平中宏典：「地域地質を活かした地学教育のあり方」、「ICTを活用した理科教育に関する理論的・実践的研究」、及び「教員養成課程におけるCSCLを活用した協調学習に関する研究」などに取り組んでいます。
- 水澤玲子：「野生植物の繁殖生態学的研究」、「クサギ属植物の分類学的研究」、「及び野生生物のDNA酸化損傷レベルと環境との関係に関する研究」などに取り組んでいます。

【現在および過去の修士論文題目（一部抜粋）】

- 吾妻小富士に見られる雪形の時系列変遷と気候要素との関係
- 花上捕食者の存在がシマクサギの送粉者であるホウジャク類の訪花行動に及ぼす影響

【在学生・卒業生のコメント】

- 自然科学の領域で研究をしています。何よりも好きな研究に邁進できることと、仮説をもって実証・解決、さらなる課題の追究をするというプロセスの積み重ねは魅力的です。高い専門性を得ることができると共に、自分の研究分野以外の先生方からも幅広く貴重な知識を得ることができることも、大学院ならではの学びの醍醐味です。
- 伊豆諸島で、花を訪れる送粉者とそれを捕食するカマキリの相互作用について研究していました。島で研究するという体験それ自体が、大学院に進学していなければ触れることのなかった貴重なものでした。また現在は小学校教諭として勤務していますが、大学院で身に着けたスキルは、実験や観察などの教科に関わるものだけでなく、ネットから適切な情報を探し出したりパソコンでデータを処理したりするスキル、いわゆる情報リテラシーもまた、仕事を進める上で大変役に立っています。さらに、大学院生活の中で知り合った先輩や同期、及び地域の人々には、今でも公私ともに様々な場面で助けられています。大学院で得たスキルや人脈は財産といっても過言ではありません。

